



### 1 みんなの持ち物を見てください。

参加者が持っているものの中からいちばん長く使っているものを見せてもらうワークです。探す時間をとり「5.4.3.2.1」のカウントのあとに一斉に出してもらうといいと思います。出したあとで、グループや全体で共有しましょう。共有の際に「どれくらい長く使っているか」「どうして長く使っているか」などを話しましょう。参加者のようすをみてサポーターから共有を始めてもいいと思います。

### 2 ユニバーサルデザインについて学びましょう。

ここでは家にあるユニバーサルデザインと町にあるユニバーサルデザインを見て、すべての人に使いやすいデザインにはどのようなものがあるのか、だれにとって使いやすいデザインなのかを考えます。グループに分かれて話し合しましょう。

① まずは①の家にあるユニバーサルデザインについて話して、気づいたことを発表しましょう。家にあるユニバーサルデザインのもの（ペットボトルや缶、シャンプーボトルなど）を教室に持参し、実際に触ってみてもいいです。

② ここでは町にあるユニバーサルデザインについて話して、気づいたことを発表しましょう。実際に町で見たことがあるか、使ったことがあるかを聞いてもいいと思います。

読みましょう

思いやりを持って行動することを「心のユニバーサルデザイン」といいます。ユニバーサルデザインのものだけではなく、わたしたちが思いやりをもって行動することですべての人びとが生活しやすい社会になることを本文以下の【考えましょう・話しましょう】で深く考えられるといいと思います。



宇都宮市「こころ ユニバーサルデザイン運動」

[https://www.city.utsunomiya.tochigi.jp/\\_res/projects/default\\_project/\\_page/001/009/548/06-07.pdf](https://www.city.utsunomiya.tochigi.jp/_res/projects/default_project/_page/001/009/548/06-07.pdf)



考えましょう  
話しましょう

### 1 ユニバーサルデザインはどのようなデザインでしょう。

本文1行目を参考に考えましょう。

### 2 多目的トイレを必要としている人はどのような人だと思いますか。

本文4、5行目を参考に考えましょう。本文にある車いすの人、子ども連れの人のほかにも、高齢者や怪我をしている人、内部障害（見た目ではわからない障害）をもつ人なども挙げられるといいと思います。

### 3 教室の中にあるユニバーサルデザインを探しましょう。

教室にあるユニバーサルデザインを探して、以下の URL で確認してみましょう。教室にもものが多くない場合はペットボトルや缶、シャンプーボトルなどを事前に準備するといいです。



富士通株式会社「家の中のユニバーサルデザインを探(さが)そう！」  
<https://www.fujitsu.com/jp/about/businesspolicy/tech/design/kids/ud/house.html>



Design for All (身近な UD 図鑑)  
<https://contest.japias.jp/tqj19/190295/ja/menu2.html>

いっしょに/  
学び合いましょう

### 1 ここにあなたがいたら、どうしますか。

ここでは自分がイラストのような人を見つけたらどうするかを自由に話し合います。まずは全体がグループでイラストの人たちがどのような状況にあるのかを考えて共有できるといいですね。そのあと自分だったらどうするかをグループで話し合しましょう。

### 2 「電車のアナウンスが聞こえない人」

耳が不自由なことを表したり、耳が不自由な人への配慮のマークとして「耳マーク」があります。この活動の中で紹介してもいいと思います。

「耳マーク」だけではなく以下のサイトのマークを紹介することもできます。マークを提示して実際に見たことがあるか話してみよう。

以下のサイトを参考にしてください。



一般社団法人全日本難聴者・中途失聴者団体連合会「耳マーク」  
<https://www.zennancho.or.jp/mimimark/mimimark/>



内閣府「障害者に関するマークの一例」  
<https://www8.cao.go.jp/shougai/mark/mark.html>

### 2 「認知症に見える人」

認知症の方への声の掛け方の映像や資料をサポートサイトに載せています。実際に参加者同士で声掛けの練習をしてみてもいいと思います。

### 2 こんなとき、あなたはどうしますか。それはどうしてですか。理由も話しましょう。

ここでは**1**よりももう少し具体的な例を出し、話し合いを進めます。仕事をしている参加者が多い場合は仕事の例、少ない場合は友だちとの約束や日本語教室に遅れそうな場合の例で話し合いを進めましょう。まずはグループで話し合い、全体で共有するといいいと思います。

### 3 自分にできることを宣言しましょう。

電車で席を譲る、困っている人に声を掛けるなど、自分にできることを宣言します。ひとりひとりできることを考えましょう。グループで相談しながら決めてもいいと思います。最後はできることを紙やホワイトボードに書いて、全員に見せながら宣言するといいいです。



今日の振り返りは必ず行いましょう。今日の活動で考えたこと、学んだこと、疑問に思ったことなどどんなことでも構いません。【学び合いましょう】**3**の宣言をここに入れてもいいです。サポーターを含めた全員で振り返りを行うことに意味があります。

※振り返りの進め方などは、ユニット1に「まつお一口メモ」があります。あわせてご覧ください。